

2024 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名	h		
所属	経済学部	学年	2年
派遣先大学	パンジャブ大学		
期間	2024年9月10日～9月20日		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

今回のプログラムを通して積極的に自分の意見や気持ちを言葉にすることの大切さを教わりました。私を含め日本人は間接的・受動的な話し方をする人が多いですが、それでは自分の疑問や思いは相手には伝わらず、特に海外では上手く意思疎通ができません。プレゼンを聞いて疑問に思ったことは臆せず質問する、嫌なことははっきりと相手に伝えるといった姿勢をインド人学生たちから学びました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと

実際に現地の人々の生活を見ていてインドは貧富の格差が非常に大きいなという風に感じました。エアコンの効いた涼しい部屋でデスクワークをする人もいれば、道端で赤ちゃんを抱えながらボールペンを売って生計を立てている人もいました。今回はSX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)について学ぶプログラムでしたが、特にインドでは環境問題に付随する様々な社会問題を同時に解決しないと持続可能な社会は実現できないという風に感じました。このように実際に現地に赴いたことで環境問題は発展途上国と先進国で考えるべき視点が大きく異なってくるということに気づくことができました。また、インド人の学生はフレンドリーで思いやりのある方ばかりで国境を越えた人の温かみにも触れることができ非常に貴重な経験となりました。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

私自身渡航前は異国の地での生活に不安を抱いていましたが、異文化に触れ、多様な価値観に出会うことで視野が広がり、気づけば柔軟な考え方ができるようになっていました。インドは歴史、文化、宗教が非常に豊かで人口が多く、多様性に溢れる国です。そして派遣先大学の学生、教授たちはホスピタリティ溢れる優しい方ばかりです。インドでの経験は一生忘れない貴重な経験となると思うのでぜひ楽しんでほしいです！



2024 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	土井舜太		
所属	経営学部経営学科	学年	4
派遣先大学	Panjab University		
期間	9/10～9/20（10日間）		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

インドの学生との協働を通じて、2つの重要なことを学びました。1つ目は、相手の意見をよく聞き、まず受け入れることの重要性です。インドの学生は、日本人とは異なる観点から意見を述べるが多く、時にはその意図や背景を理解するのに時間がかかることもありましたが、その際にまず相手の意見に耳を傾けて受け入れる姿勢を持つことが、建設的な議論を行うための第一歩だと感じました。2つ目は、自分の意見を積極的に発信することの重要性です。英語で話すことに自信がなくとも、自分の意見をはっきり伝えることで、相手に「自分は話を聞いている、考えて意見を持っている」と示すことができます。この積極性は良好なコミュニケーションをとる上で重要であると学びました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

インドの方々には私たち日本人をかなり手厚くもてなしてくれました。具体的には、学内の案内やおすすめのお店・マーケットの紹介、教授宅でのディナー等です。また、交通費（Uber等）のお金も負担してくれて、自分達で払うからとお金を返そうとすると嫌がってお金を受け取ってくれない等、奢りを含む強いおもてなしの文化があると感じました。また、小さいスナックやご飯を含めて周りの友人たちとシェアをしている姿を見ることが多く、日本人とは異なる文化であると感じました。食文化の面では、ベジタリアンの方が多いためベジタリアンメニューを用意しているお店がほとんどで、マクドナルドやSubway等のチェーン店でも用意されていたことが驚きでした。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

本プログラムを通して、インド学生との交流や英語でのコミュニケーション、現地の文化体験などたくさん貴重な経験を積み、自身の視野がより広がったと実感しています。参加をして後悔していることは一つもありません。海外に興味がある人も新しく友達を作りたい人も、インドに興味がある人も、少しでも興味があれば参加することを強くお勧めします。



2024 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	中田結貴		
所属	横浜国立大学 経営学部	学年	4 年
派遣先大学	Panjab University		
期間	2024/9/10-2024/9/20		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

3 か所のインダストリアルツアーに参加した際に、インドの成長の勢いと日本とは異なるところ両方を垣間見られたように感じた。インドの学生が積極的に質問をする姿勢は見習いたいと思った一方で、当たり前のように人海戦術で作業をしていたり、労働環境が良いとは言えなかったりとまだまだ発展途上であることや日本とは異なる点を実感した。

インドで話される英語は比較的癖があり、当初は聞き取りに苦労した。だが、日本での交流やインドで英語を使ってコミュニケーションをとる中で慣れることができたと感じている。また、英語で学んでいるからこそそのインド学生たちの語彙の豊富さや、国民性からくる積極的な交流の姿勢が特に勉強になった。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

・インドの生活や食事、そして価値観が日本とは大きく異なることを実感した。昼食を食べるというよりはお菓子（揚げ物やチップス類）を食べていたり、食べ物がどれも辛いか甘いものばかりと極端な味をしていたりした。その中では、日本でも食べ慣れているナンがすごくおいしかった。

・日本人の警戒心が希薄に見えることもあってか、インド人学生たちが私たちの一挙一動、今どこにいるかなどをすごく気にしてくれた。実際、街を歩いていると現地にいる人たちからの視線を感じたり、話しかけられたりすることもあった。日本で暮らしていて平和ボケしていることを感じさせられた。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

インドに惹かれる気持ちがあるのであれば、ぜひ参加をお勧めしたいです。インドに行く、となると衛生面や安全面など腰が引けてしまう部分もあるかと思いますが、実際に行ってみれば意外となんとかなる感じました。意外にもおなかを壊すこともなく、自分が他の人よりも辛い物が得意だということにも気が付けました。

もちろんトラブルに遭遇したりインドの人は適当だなと感じる部分があったりもしましたが、そんなところも面白くて好きになれました。人の多さや暑さにも苦労させられましたが、それでも現地で日本とは異なる文化や考え方に触れ、初めての景色を見ることは非常によい刺激になったと思います。インドの中でも綺麗で治安が良いチャンディーガルはインドデビューに良いと思います。



2024 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名	I.S.		
所属	環境情報学府 人工環境専攻	学年	修士 1 年
派遣先大学	パンジャブ大学		
期間	2024/9/10 – 9/20		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

インダストリアルツアーで、電子部品工場や織物工場、チョコレート工場に行きました。どの工場でも、日本の「5S」やカイゼンなどを重要視していて、日本の文化が伝わっているのだと感じました。

また、語学面では、現地の学生や教授とももちろん英語を使って会話をするので、リスニングやスピーキングの能力が向上しました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

インドでの生活や文化に触れる中で、特に印象に残ったのは食生活と人間関係の違いです。インドではベジタリアンが多く、食事もベジタリアン向けのものが主流でした。事前にはベジタリアン食でお腹がすくのではと心配していましたが、実際には乳製品が豊富で、特にチーズから十分なタンパク質を摂取できました。むしろ揚げ物が多く、胃がもたれることもありました。ベジタリアン食に慣れた後、チキンカレーを初めて食べたときの感動は忘れられません。

また、インドの人間関係では先輩や先生に「sir」や「ma'am」と敬称をつけて呼ぶなど、日本よりも上下関係が強く感じられました。自分の意見をしっかりと伝える文化があり、日本人の控えめな態度とは対照的でした。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

「インドに行くと世界観が変わる」といったことを聞いたことがある人もいるかもしれませんが、実際行ってみてあながち間違いではないなと思いました。日本にいたら気づかなかっただろう、多くのことがらを実際に肌で感じることで、自分が何をしたいのか、のようなことがぼんやり見えてきたように感じました。また、ただ旅行でインドに行くのでは触れ合えなかった、現地の学生との交流もできたのがこのプログラムの魅力の一つだと思います。行くのを迷っているのなら、ぜひ応募してみてください。とても良い経験になると思います。



2024 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	駒 成隆		
所属	理工学部 機械工学 EP	学年	4
派遣先大学	インド - Panjab 大学		
期間	9/10-9/20		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

日本で、海外学生と受ける授業は多くて大変でしたが、渡航してから授業を受けることはありませんでした。日本にいるときから常に英会話状態になる訳ですが、正しい英語をいい発音で話すことよりも、伝えたいという気持ちで何とか言い換えて伝えることの重要性を学びました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと

インドで出会う人たちは、明るく、果てしないホスピタリティに溢れつつ、日本人のように互いを敬い、気を遣うことのできる素敵な人たちばかりでした。

また彼らの、会議や、発表にどれだけ人数がいても、質問や意見があれば、すぐに言うその積極的な姿勢、日本人も身に着けるべきだとも感じました。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

地理的に、有名な観光地であるタージマハルやガンジス川を訪れることは出来ませんでした。

しかし、現地の学生と本当の友達になり、一緒に買い物をしたり遊んだりしたこの経験は、お金では買えない、ただの観光の何倍も価値のあるものになりました。

行けば何とかかなります。迷ったら行ってください。もう一度行きたいです。